

コロナに負けない!!

〈危機に立ち向かう市内の事業者たち〉

新型コロナウイルスの影響で経営不振に陥る事業者が市内にも増えています。

しかし、この状況をマイナスではなくプラスと捉え、

独自のアイデアで逆境を乗り切ろうと奮闘している人たちも存在します。

ここでは、そうしたお店の事例をいくつか紹介しましょう。

テイクアウトを始めたことが
店を知ってもらう
いい機会になった

2020年4月24日に三鷹駅北口にオープンした「KUBAL」は、ミシュラン1つ星店で修業を積んだ久原将太さん、パティシエの春香さんご夫妻が営むフランス料理と焼き菓子の店。オープンが緊急事態宣言と重なったため、不安だらけのスタートだったとお二人は当時を振り返ります。

「無謀な船出だと分かっていたので、契約を1月に済ませて家賃がすでに発生していたため、どうしてもオープンを先延ばしにするわけにはいかなかったんです。そこでイートインを諦めて、フレンチ総菜と焼き菓子のテイクアウトのみで営業をスタートしたのですが、こんな状況下でお客さまは足を運んでくれるのだろうか?と最初は不安な気持ちでいっぱいでしたね(春香さん)

休業している近隣の飲食店に気をつかって、告知も宣伝もほとんど行わずにひっそりとオープンしたのですが、物珍しさもあってか意外なことにオープンと同時に、たくさんのお客さまがお店を訪れてくれたそうです。

「夜遅くまで内装工事や開店の準備



をしているのを見て、「どんな店ができるんだろう?」とオープン前から気に掛けてくれた人が多かったようです。また外出自粛が続いたことで、おいしいものを食べたいというストレスを皆さんが抱え始めていたことも店にとってはプラスに働きました。おかげさまでオープン1カ月でテイクアウトだけで当初の売上目標(イートイン想定)を達成することができましたよ(将太さん)

6月からは念願のイートインもスタート。現在はリピーター客も順調に増えて、週末は予約で満席になる日もあるそうです。

「今、思い返すとイートインに固執しすぎず、臨機応変に経営の舵を切ったのが良かったのかもしれないね。実はテイクアウトにチャレンジしたことが、店を知ってもらうためのいい宣伝になったんです。フレンチと聞いて敷居が高いと感じる人も1000円前後で気軽にお総菜を味わえるとなると、食べてみようという気持ちになります

ウッディな落ち着いた雰囲気の中で味わう、季節の素材を使ったボリュームたっぷりの料理と、華のあるデザートがこの店の魅力。奥には半個室スペースも。

コロナ後の吉祥寺の商店街は どう変わっていくのか？

市内で不動産業を営み、店舗を仲介する機会も多い荒井伸吉さん（武蔵野商工会議所副会頭）は、コロナ禍の吉祥寺の商店街の現状を次のように語ります。

「緊急事態宣言時、お店をやっている人たちから“このままでは続けていけないから、家賃を下げてもらえないか”という声も寄せられ、お願いされた大家さんが2～3割ほど家賃を下げたんです。そのかきもあって今のところ商店街に空き店舗は思ったほど目立ってはいません。しかし今後は廃業する店が徐々に増える可能性があります。必ずしもコロナが撤退理由というわけではないのですが、昔ながらのスタイルで商売を続けていた店の中には、“あまり売り上げも伸びないし、この機会にやめてしまおう”と考えるところも出てくるはずですよ」

そう聞くと、吉祥寺からにぎわいが失われてしまうのでは——と不安に思う人も多いはずですが、荒井さんはまさに新陳代謝が起こるのは当然の流れで、必ずしも悪いことではないと語ります。

「長く地元で愛されてきた店が無くなるのは確かに寂しいけど、空き店舗が増えることで、逆に新しい風が街に吹き込まれ、商店街がより活性化していくとも考えられます。これまで吉祥寺は店舗を借りたくても商圈として人気が高く、なかなか空き物件が出てこなかった。それが、今後は借りやすくなるわけですからね。恐らくこれからはコロナ後の世界を想定した新しいスタイルの店舗や業種が参入してくると予想されます。また、空き店舗に出店すると支援金が受けられる制度（商店会活性化出店支援金）を市が新たに作ったことで、出店のハードルはさらに下がっています。今の状況は新しく商売を始めようという人にとっては大きなチャンスとも言えるのではないのでしょうか」

コロナに負けない店舗づくりや業種など、新しいアイデアを持った方の参入に期待しています



株式会社リベスト代表取締役
武蔵野商工会議所副会頭
荒井伸吉さん



シェフの自信作、KUAL
特製ビーフベース。

「今後は季節のイベントなどにも力を入れて、地域の皆さんに愛される店を目指したい」と話す料理担当の久原将太さんと、お菓子担当の春香さん。

からね。また、オープン前に、各自治体でやっているコロナ支援策をじっくり調べて、どれを受けるべきかを考えることができたのも良かった。お店を始めてしまうと、なかなか時間的な余裕がありませんからね（将太さん）

コロナの影響を最小限にできたのは、たまたま運が良かっただけ——と謙遜する久原さんご夫婦ですが、おいしいものを多くの人に提供したいという真摯な姿勢が、結果的にはコロナを乗り越える力となったようです。



KUAL

武蔵野市西久保 2-3-15
Tel. 0422-27-7753
午前 11 時 30 分～午後 3 時
(テイクアウトのみ、金・土・日は予約のみでイートイン営業あり) / 午後 6 時～11 時
(イートインのみ)
定休日: 月曜、不定休 (インスタグラムをご覧ください)

常識にとられない 経営スタイルでコロナを 乗り切る

コロナに苦しむ店が多い一方で、独自の経営スタイルを導入したことで、コロナの影響をそれほど受けずに済んだ店もあります。2019年7月に吉祥寺にオープンした書店「ブックマンション」もそのひとつです。この店は一般書店とは異なり、本棚を複数の出店者でシェアする「棚貸し本屋」のスタイルをとっています。店主の中西功さんは、コロナを想定して店を造ったわけではないが、結果的には皆で本屋を経営するシェアスタイルを導入したことでコロナのリスクを回避できたと話します。

「この店では、32cm角の棚を月額3850円で70〜80人ほどに貸し出して、毎月決まったお金が入ってくる点では安定しており、緊急事態宣言の休業期間もそれほどリスクを感じずに済みました。おまけに棚をレンタルしている人たちが自主的に店番をやってくれるので人件費は発生しません」



弟さんと一緒に作った三鷹の無人古本屋「ブックロード」も運営している中西功さん。

もともと中西さんは、「本屋さんをシェアする文化を全国に広めたい」というコンセプトでこの店をスタートしたそうです。

「本が好きな人ともっと知り合いたい、情報を共有したいという好奇心がそもそもの出店動機。本棚のオーナーの顔ぶれはさまざま、小学5年生の少年から、学校の先生、工場に勤めている人、NPO法人の運営者、現役の編集者などいろんな人がいます。皆さんがSNSで情報を発信し、それがどんどん拡散されていくから特に宣伝をする必要もないんですよ」

そもそもこれで儲けようとして始めたことではないそうです。

「店の中だけで完結する商売をやるつもりは最初からなくて、SNSでさまざまな人と交流する中で新たなビジネスが生まれるのを期待して店を始めたんです。おかげさまで今では、大手企業やコワーキングスペースなどの企



古本から新刊本、自費出版物まで、個性豊かな本が並ぶブックマンションの書棚。

武蔵野市がこれまでに実施した 新型コロナウイルス感染症関連の 事業者支援策

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を機に、市では国・都の支援制度の対象外となり、支援を受けられない中小企業や個人事業主を少しでも減らすために、独自の支援策や相談窓口を用意しました。支援策の多くは申請受付を終了していますが、「中小企業者等テナント家賃支援金」「商店会活性出店支援金」など、引き続き申請を受け付けている制度もありますので、ぜひご活用ください。



支援策についての詳しい情報はこちらからご覧になれます

【すでに申請受付を終了した支援策】

- 感染拡大防止中小企業者等緊急支援金
- 感染拡大防止インフラ中小企業者等支援金

新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら営業を続けた中小企業者等（都の感染拡大防止協力金の対象業種などに該当しないことが条件）を対象に、市が独自の支援金を支給。
支給額＝法人30万円、個人事業者15万円
申請期間＝令和2年8月3日～10月30日

● フードスクラムむさしの

飲食店の経営環境改善とまちの元気を創ることを目的に、市内飲食店を支援するさまざまな取り組みを実施。テイクアウト・デリバリーへの業態転換や情報発信にかかる資金支援（最大10万円）、クラウドファンディングを活用したプレミアム付食事券事業（エール！むさしの）に対する補助など、さまざまな支援プログラムを用意。
申請期間＝令和2年6月15日～8月31日

【現在申請を受け付けている支援策】

● 事業者支援「ほっとらいん」

市だけでなく、国や都を含めた事業者向けの支援策に関する相談を受け付けるためのコールセンターと相談窓口を設置。
実施期間＝令和2年8月3日～令和3年1月29日
Tel.0422-60-1969

● 中小企業者等テナント家賃支援金

市内で家賃を支払っている事業者（月額家賃37万5000円を超える個人事業者、月額家賃75万円を超える中小企業者など）で、緊急事態宣言の延長・解除後も売上減の影響が大きい事業者に対して、家賃支援金を支給。
支給額＝最大60万円（月額上限10万円×6カ月、月額家賃による）
申請期間＝令和2年8月17日～令和3年1月29日

● 商店会活性出店支援金

市内の空き店舗または空き事務所を賃借して事業を開始する事業者を支援する制度。
支給額＝事業開始時に30万円、6カ月経過後に30万円を支給
申請期間＝事業開始時：令和2年8月11日～令和3年3月31日
6カ月経過後：事業開始6カ月後～令和3年10月1日

業から書店コンサルの依頼が来るようになって経営的には順調です。近いうちに市の「商店会活性出店支援金」を利用して、吉祥寺にもう1店舗、出店する予定もあるんですよ。何をやるかはまだ決まっていなくてですけどね（笑）

「どんな店を始めるのか決まらずに物件を借りるといっても常識外れだが、まずハコありきというのが中西さんの考え方のなかか。」

「物件をお借りできて、そこにコンテナツとしてのアイデアを吹き込めれば商売は可能です。店舗をスマホ、そこで何をやるのかはアプリと考えてみてください。アプリは一度インストールしても、自分には合わないそうだったら削除することが可能ですよね。一度商売を始めてうまくいかなかったら違うことを始めればいいんです。これまでは『商売を始めるには人生を賭ける覚悟が必要』と考えられがちだと思いますが、もっと柔軟に考えれば店を維持していく方法はいくつから見つかると思うんです」

さらに中西さんは、これから商売を

始める人は、コロナ前に商売を始めた店と比べると、リスクも少ないはずだとおっしゃいます。

「これから商売を始めようとする人は『こういうお店作りは避けられない』ということが分かっていますから。既に各店の工夫はいろいろなので報道されていますし、それをこれから取り組むお店に反映した状態で運営できます。大変な状況に変わりは無いですが、他店の事例を学びながら、常に新たな可能性を模索していきたいです。」



中西さんはブックマンションが入っているビルを1棟丸ごと借りていて、ほかの階は現在イベントなどを行うレンタルスペースとして使用している。

ブックマンション

武蔵野市吉祥寺本町 2-13-1
パツコンビル地下1階
午後1時～5時
定休日：月・火・木曜